

# 集

俳句フォーラム

2005年1月 第14号

# 藤の会

花野

福山至遊

原爆忌太りすぎたる鳩の群  
故郷を捨てて老いけり魂祭  
秋暑し屋上までの鉄梯子  
トラックが並んで停まる花野かな  
秋草や工業団地まだ空地

縄梯子

若泉真樹

短編の最後は白紙明易し  
夏空は瑠璃百人に言祝がれ  
空蟬の木に累々と戦没碑  
賢治来て銀河に懸ける縄梯子  
読み捨てる雑誌水着の少女笑む

梯子

大山夏子

巴里祭や地球儀埃拭いけり  
水平線の傾く岬銀やんま  
みんみんの縦列整列朝の階  
秋暑し天守に登る梯子段  
良夜なり空に梯子をたてかけし

青鬼灯

廣戸次郎

花菖蒲下総言葉の水馴竿  
立葵花茎の先に筑波嶺  
水やりて青鬼灯の紅の斑  
店番の鉄風鈴や黄粉飴  
コスモスの一輪挿しや道の駅

段梯子

石川賢吾

愚痴一つ聞いて貰えぬ酷暑かな  
宿坊の布団の薄き秋意かな  
蔵の街駐在所にも夏暖簾  
ちんちろりん軋む蕎麦屋の段梯子  
宿帳に一人をしるし男郎花

秋　へ

竹内太郎

密かなる死への憧憬大夕焼  
路地ひとつ違へて出遭ふ月見草  
肌寒や眼鏡違ひの重なつて  
人と会ふ色なき風の生まれる日  
軒先の雨垂ればつり夢二の忌

葎　簾

吉宇田知英子

窓からの景色は変えると葎簾  
ゲジゲジが落ちて来そうで首すくめ  
夏休みのラジオ体操案内図  
浴衣に合う下駄の鼻緒を選びけり  
手づくりの羊羹残暑の義母見舞う

魔法瓶

遠塚青嵐

田植かな荷台の上の魔法瓶  
飄然と毛虫が下がる朝の森  
丸文字でラムネ有ります峠茶屋  
雨脚の長きひと日や鉄線花  
おちこちの田に鳥威し夕日落つ